



2025 年 12 月 12 日

「鉄道の安全輸送の確保について（指示）」に対して講じた改善措置の
2025 年 11 月末日までの実施状況等の報告について

2025 年 3 月 31 日に受領した「鉄道の安全輸送の確保について（指示）」に対して講じた措置等および「安全に関する不適切な事象への対応の報告について」（2025 年 7 月 31 日付）の 4 件の事象に対して講じた措置の進捗状況の確認表を作成し、定期的に報告することとしております。

このたび、2025 年 11 月末日までに講じた改善措置等の進捗について、進捗状況の確認表として添付書類により取りまとめ、以下の通り北海道運輸局へ報告しました。

また、取り組みを進めている中、ウェアラブルカメラ導入により、列車見張員が見張業務に専念せず、踏切の除雪作業に従事するというルール違反を発見した事例の概況を 12 月 3 日に北海道運輸局へ報告したところでありますが、その再発防止策をとりまとめて、本日報告しました。

- ・『「鉄道の安全輸送の確保について（指示）」に対して講ずる措置」の
2025 年 11 月末日実施状況報告
- ・ウェアラブルカメラ導入により、ルール違反を発見した事例

「『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置」の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組			取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (具体的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度												
							第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			
							4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
安全監査	安全監査室	安全監査室	設置	社長直轄の組織として新たに「安全監査室」を設置		完了																									
			内部監査の実施	・各系統の安全に関するルールや事故・事象の対策の実施状況の点検に特化した組織を設置し、例えば安全パトロールの具体的な内容等、その詳細にまで踏み込んで確認を行うこととします。また、社長直轄の組織とすることで、社長から直接指示を受け、機動的に、独立した立場で監査を実施する体制とします。 ・安全推進部や各主管部による現場点検の取組みが有効に機能しているかや、各主管部の取組みで他の主管部においても取り入れるべきものはないか、などの観点で点検を行い、必要な改善を指摘します。	・3保線所、13保線管理室に対し安全監査を実施。 (全10保線所中9箇所、全34保線管理室31箇所実施済み) (10月)名寄保線所、名寄、音威子府、稚内保線管理室 (10月)函館保線所、函館、大沼、八雲、長万部保線管理室 (11月)札幌保線所、札幌、江別、島松、小樽、倶知安、石狩当別保線管理室 ・北見・帯広・釧路保線所管内の安全監査の結果は安全推進委員会で審議(帯広、釧路保線所は見込み) ・駅に対する臨時ヒアリング (9月)駅業務部及び網走、南稚内駅 (11月)北見、富良野、長万部、森 ・安全監査実施要領(案)を作成中(12月制定予定)																										
	業務支援室の体制強化	GLの配置		完了																											
		工務部 業務実施状況の監査及びフォロー	業務支援室に保安業務に精通したGLを配置して体制を強化するとともに、作業管理に関する業務実施状況の監査及びフォローを行います。	・10月:5保線管理室等 〔名寄、音威子府、島松、稚内、木古内〕 ・11月:4保線管理室 〔小樽、釧路、室蘭、白糠〕 工務関係全現業機関46箇所のうち、33箇所実施																											
	安全パトロール	取組強化期間の設定	全保線管理室等に対する安全パトロールについて「取組強化期間」を設定し、計画部門(本社工務部及び各支社施設グループ)や保線所管理者による安全パトロールを強化して実施することを計画。	完了																											
		取組強化期間の実施状況確認		各現場において実施計画を定め、継続的に安全パトロールを実施し実態を確認(実績は以下に記載)																											
	工務部	チェック項目および実施体制の見直し	今後の安全パトロールについては、作業すべての立会を基本としていたものから、現場点呼のみなど一部での実施や立会の他、遠隔通話アプリ等での実施も可とすることで、負担をかけずに機会を増やすこととします。 また、安全パトロール点検表の共通化、実施者や実施回数を明確に定めるなどして、効果的な安全パトロールを実施していくこととします。	・保線課 保線所管理者による安全パトロール実績(直轄社員対象) 10月:64回、11月:59回 保線管理室による安全パトロール実績(直轄社員対象) 10月:173回、11月:120回 ・工事課(11/30時点) 全4構造物検査センターに対して、延べ8回実施 (内訳:10月:5回、11月:3回) ・設備課(11/30時点) 全4か所中1設備所に対して、1回実施 (内訳:10月1回)																											
		触車事故防止強化月間の取り組み		触車事故防止強化月間の取り組みとして、セルフチェック(作業責任者412件、列車見張員180件)、安全パトロール71件、現場点呼(B点呼)の内容確認296件を実施(直轄18職場、請負会社30職場)。実施結果について12月の安全推進委員会電気専門部会で報告予定。																											
	電気部	実施体制の明確化および実施状況確認	更なる適切な作業管理に向け、触車事故防止強化月間(9月)中に、線路上作業時の現場における点呼の実施状況を記録し、作業員への運転状況の確認結果を周知しているかなど、適切に点呼が実施されているかを確認することとします。 また、社員に対する安全パトロールについて、実施者や実施回数を明確に定めるなどルール化します。	・直轄社員の作業等の安全パトロールについて、全8職場に対して、10月 21回、11月 13回 ※2025.11末																											

『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の2025年11末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組			取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (具体的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度												
							第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			
							4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
安全監査	実作業点検	駅業務部	点検項目および点検頻度の見直し		2025年10月31日付 駅業指導E25-0014号「冬期除雪作業に関する知識技能の保有状況確認と教育について」を发出し、経験3年未満の列車見張員に対しては必ず実作業実態把握(実作業点検)を行うことと定めた(従来は頻度の定めがあった)。また、点検項目について、指定した間合いが使用できない時の取扱方およびウェアラブルカメラの取扱方を追加した。	完了																									
			実施状況		実施駅59駅にて12月より実施予定(在来線56駅、新幹線3駅)。各駅での実施状況は月ごとに駅業務部に報告させ、確認する予定。	完了																									
			現場巡回における実作業、指導訓練立ち会い	・現場長及び管理者により当務やパートナー社員への実作業点検を実施してきましたが、ルール通りの取扱いをしていないことによる事象が発生していることから、点検頻度、点検項目の見直しを図るなど、適切に点検指導できるように取り組むこととします。 ・計画部門による現場巡回において、現場長による自主監査に基づいた、帳票上での確認に比重を置いてチェックしてきましたが、現場の実作業立ち会い、教育関係の指導・補助にシフトした巡回にしていきます。	事務連絡「輸送の安全確保に向けて(第2回目)」(2025年9月17日付駅案第76号)を发出し、運転取扱駅・運行管理駅・準運転取扱駅を対象に、 ①自主監査実施状況・結果の把握、 ②実作業点検及び駅指導訓練への立ち会い ③保守用車合同訓練点検 ※該当駅 ④社員との意見交換を行うこととした。 ※特に南稚内事象対策である駅間承認の訓練(指導訓練もしくは保守用車合同訓練内で実施)を確認することとした。 ※非運転駅については「安全確保巡回」の非対象の駅ではあるが、一部の駅では実施している。 課長等による安全確保巡回実施中(第2回目) ○運転取扱駅: 10駅/11駅 ○運行管理駅: 5駅/5駅 ○準運転取扱駅: 5駅/10駅(対象駅は5駅) ○非運転駅: 1駅/30駅 ○新幹線駅: 3駅/3駅 ※現在日常的に運転取扱を行っていない準運転取扱駅は非運転駅とみなしている。運転取扱駅の残る1駅は現車訓練日程に合わせて12月中に実施予定。 ・点検結果、見つかった課題等については12月中にとりまとめ、第4四半期報告で報告予定																										
	請負会社に対する作業実態の把握	工務部	工事管理者の資質に関する再確認の実施	・協力会社59社中(今年度、現時点までで契約実績のある会社数)46社85名の見極めを実施し適性を確認 ※2025.11.末 ※冬期間の除雪作業で契約する協力会社については、契約会社が確定次第別途記載する。																											
			安全ハットロールによる工事指揮者への理解度の確認	・協力会社18社中11社65名の見極めを実施し適性を確認 ※2025.11.末																											
		安全監査室	現場作業実態のチェック等の安全監査	6月のヒアリング結果を踏まえ、10/24の安全推進委員会にて審議した。																											
	業務実施状況確認の見直し	電気部	本社社員の現場社員へのヒアリング安全ルールの遵守状況や教育状況の確認	本社社員が4半期ごとに実施している業務実施状況確認では、主に現場管理者からヒアリングを行っていましたが、現場社員の声を直接聞く機会が少なかったことから、年に1回は、各箇所の全体会議等に併せて実施し、現場社員と直接意見交換を実施することで、安全ルールの遵守状況や教育状況を本社社員が直接確認します。	業務実施状況確認における現場社員との意見交換 ・全17箇所中7カ所完了 ※2025.11月末現在 ・札幌新幹線工事事務所(10/23実施) ・札幌信号通信指令(10/29実施) ・札幌電力所(10/30実施) ・旭川電気所(11/27実施) ・函館電気指令(11/27実施) ・旭川電気指令(11/28実施)																										
	現場実態把握の強化	車両部	作業状態の確認	車両部社員が年一回、現場フォローとして各現場へ出向き、安全の取組みについて確認を行ってきましたが、管理者からのヒアリングのみに終始していたことから、今後は作業状況も直接確認することとし、実態把握を強化します。	2025年度現場フォロー実施項目 ・「報告から始まる安全」の取り組みについて ・接減故障ZEROについて ・エンジン始動時の注意喚起について(作業状況確認) ・床下機器箱蓋の落し防止対策について(作業状況確認) 2025年度第3四半期の実施実績 ・帯広運転所(10/9実施) ・釧路運輸車両所(10/10実施) ・苫小牧運転所(10/14実施) ・函館新幹線総合車両所(10/27実施) ・函館運輸所(10/28実施) ・北見運転所(10/29実施) ・苗穂工場(11/18実施) ・旭川運転所(11/18実施) ・苗穂運転所(11/20実施)																										

『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組			取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (進捗的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							第1四半期				第2四半期				第3四半期				第4四半期				第1四半期				第2四半期				第3四半期				第4四半期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ハード対策	車両前頭カメラ 【費用見込み 約200百万円】	車両部 (運輸部)	設置方法確定		・札幌圏電車への暫定設置検討開始 (9/29実施の初回現車確認を踏まえて検討着手済)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										

11/30現在

4 ページ

『「鉄道の安全輸送の確保について(指示)」に対して講ずる措置」の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組		取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (具体的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度																								2026年度											
						第1四半期				第2四半期				第3四半期				第4四半期				第1四半期				第2四半期				第3四半期				第4四半期							
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3												
安全管理	線路内作業における プロセス管理手法の 導入	工務部	ルール確定		完了	●通達発出、運用開始																																			
			管理室等の毎週1回の ミーティングの実施(実績)	上記のプロセス管理に作業管理を追加した体系とすることで、保線管理室において、計画担当者が作成した週間作業計画について、管理者や計画担当者等により毎週1回のミーティングを実施し、(7)作業内容及び役割分担、(4)作業量に対する人員と間合いに無理は無いが、(4)従事者の作業経験等、(1)作業計画表作成に必要な時間が確保できるか等を確認した上で、必要な社員周知を実施します。なお、これらは議事録として記録され、保線所で実施する月1回のミーティングにおいて、これらの取組みが問題なく実施されているかを確認し、必要な措置及びフォローを行う体制となり、この議事録は本社へ報告されることとなります。	・8月分の本社保線課による業務管理MTを実施(10/1)。 ・9月分の本社保線課による業務管理MTを実施(10/28)。	●8/1実施(6月分) ●8/27実施(7月分) ●10/1実施(8月分) ●10/28実施(9月分)																								※以降は継続して実施											
			保線所等でのミーティングの実施(実績)			月1回助役会議に合わせて実施																								※以降は継続して実施											
			本社でのミーティングの実施(実績)			月一回開催																								※以降は継続して実施											
	ミーティングを行うための 環境整備	工務部	保線管理室における 確保状況	業務プロセスが確実に遂行できるよう、これまで十分に確保できていなかった各保線管理室におけるミーティングスペースの確保といった環境整備を行うこととしています。		実態調査 → レイアウト変更 → 管理室の建物老朽化に伴う更新等の状況に応じて、ミーティングスペースを確保していく(継続) ※最低1㎡のミーティングスペース確保(完了)																																			
			保安ルールのチェック項目の追加		完了	●通達発出																																			
	現場長自主監査への 安全ルールの追記	工務部	作業安全に関わる項目の本社による 実施状況確認の重点項目	自主監査のチェック項目に、作業計画表や現場点呼簿が作成されているか、事故事例を身近な業務に落とし込んだ教育を随時適切に実施しているかを追加する等、保安ルールに対するチェック項目を見直すとともに、作業安全に係る項目については、当面の間、本社による実施状況確認の重点項目として扱うこととしました。		本社社員による現場への自主監査フォロー 11月30日時点 全19箇所中17箇所完了																								※2025年度の実施結果を踏まえ、次年度の教育内容を踏まえ、※以降は継続して実施											
			「使用済みタイヤの確認」項目の追加	更なる適切な作業管理のため、新たに自主監査のチェック項目に「使用済みタイヤの確認」の項目を追加し、線路内立ち入り時のルールの遵守状況を定期的に確認します。	・全8現業機関中8カ所完了 ※2025.11月末現在 ・釧路電氣所(10/22実施) 札幌信号送信所、岩見沢電氣所(10/24実施) 函館電氣所(10/28実施) 函館新幹線電氣所、苫小牧電氣所(10/29実施) 札幌電力所(10/31実施) 旭川電氣所(11/5実施)		本社社員による現場への自主監査フォロー 11月30日時点 全8箇所完了																								※2025年度の実施結果を踏まえ、次年度の教育内容を検討 ※以降は継続して実施										
	技術力診断書の活用	工務部	技術力診断システムに作業管理の 項目追加	既存の技術力診断システムに、作業管理の観点に対する設問を追加し、作業管理に対して適切に指導を実施する環境を構築することとしました。		●仕様決定 ●追加設問作成 システム改修 → ●使用開始																																			
			事故等の対策検討	安全推進部 駅業務部 運輸部 車両部 工務部 電気部	発生した事故・事象に対する対策は、これまで現場の声も聴きながら、主に本社で検討・策定していましたが、それが遵守されずに同種事象を再発させてしまう事態も生じていました。 安全アドバイザーから頂いた助言をもとに、発生した事故・事象の対策検討について、現場が主体的に対策を考えたうえで、本社が実行可能かつ実効性のある最終的な対策案を策定することとしました。	・駅業：2025.1.10 宗谷線南稚内～兜沼間 線閉手続きをとらず、保守用車を駅間に進出させた事象において、当事者の職場内議論結果を踏まえた対策を策定 ・引き続き、発生した事象に対して、各系統において職場内議論結果を踏まえた対策を検討	完了	危険事象等について、発生箇所での議論結果を踏まえ対策を検討																								※以降は継続して実施									

『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組			取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (進捗的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
							第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
安全意識 醸成	コンプライアンス 教育	工務部	保線安全の日	今年度の「保線安全の日」において、「お客様の安全」とともに「従事する社員の安全」の観点をテーマとしたグループディスカッション等を行い、お客様と社員の命を守ることの重要性を再認識し、開かれた組織風土醸成の機会にすることとしました。	・2025年度の保線安全の日(9/19)は、全道11箇所で開催し、社員650名、G会社3社114名、協力会社49社105名の合計869名が参加	完了 継続 実施																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		

「『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置」の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組		取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (長期的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度													
						第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期														
安全意識 醸成	コンプライアンス 教育	駅業務部	「報告から始まる安全」について議論 を行い、各駅の指導訓練に展開する	今年度実施済み																											
			ルールを守る重要性【規範教育】の 内容見直し 新任現場長・新任管理者研修、列車 見張員講習会・冬期安全講習会にお ける教育	今年度実施済み																											
			・安全推進委員会駅専門部会において「報告から始まる安全」について議論を行うことを継続し、各駅で実施する指導訓練では同会議で使用した資料を使用した教育を実施します。加えて、当務従事者には集合研修において同教育を継続して実施していきます。 ・駅系統においてもルールを遵守しなかった事象が発生していることから「ルールを守る重要性(規範教育)」について内容を見直し、管理者層には「新任現場長研修」「新任管理者への特別講義」、当務及び作業員に対しては「列車見張員講習会」「冬期安全講習会」において教育を継続して実施し、コンプライアンス意識を高めていきます。	・「ルールを守る重要性(規範教育)」資料の見直しを実施 ・列車見張員講習会(全24会場、32回開催)において、列車見張員従事予定者全員に対し、同資料を用いて教育実施。 ・各駅の冬期安全講習会(在来線全駅で実施)にて、冬期除雪作業に従事する駅社員およびパートナー社員全員に対し、同資料を用いて教育実施																											
	運輸部	本社作成資料による教育 国土交通省の事務連絡による 教育	・運転士 10～11月:6現場/全13現場 ・車 掌 10～11月:3現場/全5現場 ・運輸局事務連絡を受け指導文書「無資格者による列車又は車両の操縦作業の再発防止について」を発出(11/14)																												
		新任運転関係管理者研修や フォロー研修の見直し	運輸系統では報告の重要性について毎月の教育訓練において、事例検討等により「正しい報告の重要性について」指導を行ってきましたが、事象をありのままに報告できなかった事象が散見されており、十分に浸透させることができていなかったと認識しております。毎月実施している教育訓練の内、年に一度、報告することの意義などを含めた本社作成資料で教育することを2025年下期に実施します。また、国土交通省からの事務連絡等、コンプライアンスに関する他社事例についても教育を実施します。さらに、新任運転関係管理者研修や運転士・車掌に対するフォロー研修等において「報告から始まる安全」についての教育を2025年7月以降順次追加するなどコンプライアンス徹底に向けた取り組みを強化してまいります。	・「報告から始まる安全」についてカリキュラムを追加し教育実施 新任運転関係管理者研修 7/15実施(全1回実施) 新人車掌フォローⅠ研修 7/23～実施(4回実施/全6回) 新人車掌フォローⅡ研修 8/27～実施(4回実施/全5回) 新人運転士フォローⅠ研修 7/31～実施(3回実施/全7回) 新人運転士フォローⅡ研修 9/1～実施(4回実施/全10回) 新人運転士フォローⅢ研修 9/25～実施(4回実施/全9回)																											
	車両部	検修社員等の教育訓練方針への追加	車両系統では改めて取り組みを精査した結果、車両部が発出している「検修社員等の教育訓練方針」には「報告から始まる安全」の教育内容が含まれていなかったこと、および一部の集合研修で「事故と事象の報告制度」の講義を行っていたものの「報告から始まる安全」に関する講義は行われていなかったことが分かりました。このことから今後は、「検修社員等の教育訓練方針」に「報告から始まる安全」の教育を加え、現業機関で毎月実施している検修社員等の教育訓練の内、年に一度「報告から始まる安全」の教育を追加することにした。また、階層別集合研修(フレッシュ検修分科、車両基礎科、車両管理技術科、車両技術マスタ科、新任管理者科、実践管理者科)において「報告から始まる安全」に関する講義を追加することにした。	・車両部資料を検討中、年度内実施予定 ・今年度終了済み																											
		階層別集合研修への追加																													
	電気部	10条教育・電気関係社員安全講習会	電気系統では改めて取り組みを精査した結果、「報告から始まる安全」、「安全意識と行動」、「コンプライアンス」「正しく報告しなかった場合の厳しい処分」等の教育については、各箇所での職場内講習会等が中心となっており、本社等が行う教育は過去のインシデント対策や風化防止を目的としたものであったことから、コンプライアンス及び安全意識の再徹底策として、電気関係全社員が対象の電気関係社員安全講習会や10条教育に、それらに関する教育プログラムを追加し、社員への浸透度を高める取り組みを実施します。また、職場の核となる助役、主任に対しての教育は重要であることから、新任管理者研修及び新任主任研修にも同項目を追加します。	「報告から始まる安全」等についてカリキュラムを追加し教育実施 ・10条教育 23回実施/全23回 ・電気関係社員安全講習会 3回実施/全3回																											
		請負会社への安全意識の向上に寄与する教育																													
		新任管理者研修及び新任主任研修																													

『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組			取組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (具体的な取組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度											
							第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
安全意識 醸成	安全研修	安全推進部	安全研修(第3期)(実施中(2026年度未まで))	現在実施している安全研修(第3期)において、砂川駅構内で発生した事象を用いて、社員の安全を守るためのルール遵守及び「ありのままに報告する」ことの重要性を教育することとしました。	・受講対象者約1,600名のうち950名(約59%)が受講済み(2025年11月末現在) ・G会社向け安全研修のカリキュラムを検討中。		<div>●JR北海道社員対象</div> <div>11月30日時点 約1,600名のうち950名(約59%)が受講済み</div> <div>●G会社社員対象 ※短縮版</div>																							
			安全研修(第4期)(計画～開始)	今後検討していく安全研修(第4期)(2027年度から開始予定)におきましても、コンプライアンス及び安全意識の再徹底を図るカリキュラムを充実させてまいります。	・今年度中に研修内容を決定し、次年度から映像コンテンツ及び展示物の改修等に向けたスケジュールを策定。		<div>●ヒアリング実施</div> <div>●映像作成、展示物作成</div> <div>※2027年度中に開始(予定)</div>																							
	報告から始まる安全	安全推進部	アンケート結果の集約と実施内容の検討			完了	<div>●各職場で取り組み実施</div> <div>●アンケート結果等集計</div> <div>●実施内容の検討</div> <div>●可能なものから実施</div> <div>※以降は継続して実施</div>																							
	施行		今年度の「安全再生の日」の取組みにおいて、「報告から始まる安全」の取組みを深度化させる目的で、その意義や重要性を職場単位であらためて教育する取組みを行っています。 その取組みにおいて、「報告から始まる安全」の取組みについて、社員の率直な思いを聞き取るアンケートを実施し、現在、その意見を集約しているところです。 これらの意見などを踏まえ、「報告から始まる安全」の社員への浸透度を高める持続的な実施方法など、事故・事象報告に対する改善策について検討してまいります。	・アンケート結果は集約済み ・他社の取り組みの調査をすすめるとともに、鉄道総研やコンサルティング会社に取り組みべき事柄について相談している。																										
	指令員に対する教育	運輸部	JR東日本研修施設の視察	教育カリキュラムを充実させることを目的として、指令員の指導に携わる社員が他社の安全研修施設の視察により教育手法を学び、自箇所における職場内教育において効果的な指導を実施することとしました。		完了	<div>●JR東日本視察実施</div>																							
			資料作成		完了	<div>★(資料作成は3月下旬着手)</div> <div>●視察内容反映</div> <div>●完成予定輸送指導担当者会議で共有</div> <div>●各支社展開一本・各支社指導訓練で使用開始</div>																								
			指導訓練による指令員教育	毎月行っている教育訓練の内、年に一度、2024年11月16日に函館線森～石谷間において脱線した列車の隣接線に貨物列車を通過させた事象や三河島事故等などの過去の事故事例を用いて、事故発生時における運転士の報告から最速の事態を想起できるような教育を行い、継続的に指令員の異常時対応力の向上を図っていくこととしました。	教育資料について、10/10に本・支社指令へ配布 ・本社 (12/16-19 教育実施予定) ・函館支社 (11/25-27 教育実施) ・旭川支社 (12/22-25 教育実施予定) ・釧路支社 (12/17-19 教育実施予定)		<div>●本社実施(12/16-19予定) ※2025年度の実施結果を踏まえ、次年度の教育内容を検討</div> <div>●函館支社実施(11/25-27)</div> <div>●釧路支社実施(12/17-19予定) ※以降は継続して実施</div> <div>●旭川支社実施(12/22-25予定)</div> <div>11月30日時点 4箇所のうち、1箇所実施</div>																							
			全道輸送指導担当者会議(年4回 6・9・12・3月本社開催：TV)	運行よりも安全確保が第一であることを徹底していくために、全道の指令員の指導に携わる社員により定期的に開催している全道輸送指導担当者会議及び指令員教育指導会議において意見交換を行い、全道の輸送指令員に浸透させていくための指導教育内容を検討し継続的に取組んでいくこととしました。	・全道輸送指導担当者会議開催(12/4予定、3/19予定)		<div>●本社実施(9/26)</div> <div>●実施(9/18)</div> <div>●実施(12/4予定)</div> <div>●実施(3/19予定) ※2025年度の実施結果を踏まえ、次年度の取組内容を検討 ※以降は継続して実施</div>																							
			指令員教育指導会議(年4回 6・9・10・11月本社・各支社開催)		・指令員教育指導会議開催(釧路：10/23、旭川：11/20)		<div>●函館支社実施(9/25)</div> <div>●釧路支社実施(10/23)</div> <div>●旭川支社実施(11/20)</div> <div>11月30日時点 全4箇所実施</div> <div>※2025年度の実施結果を踏まえ、次年度の取組内容を検討 ※以降は継続して実施</div>																							
	指導者層のフォローの取組	車両部	外部機関等を活用した現場指導者層のフォロー	現場の指導者層を集めた教育訓練担当者会議で、指導者間で、若い世代への伝え方、教育方法等に対する悩みを共有してきましたが、今後はこれらの悩みや課題を解決し、指導力向上につながるように、外部機関等を活用して指導者層をフォローする取組みを行います。	・指導者層の心構えや若手世代への伝え方について習得するため、本社及び車両検修関係の現場管理者を対象に、外部機関による研修を受講10/10:22名		<div>●内容決定</div> <div>●外部機関研修受講</div> <div>11月30日時点 ・本社教育担当にて外部機関による研修5名受講 ・本社及び車両検修関係の現場管理者を対象に、外部機関による研修22名受講</div> <div>※2025年度の実施結果を踏まえ、次年度の教育内容を検討 ※以降は継続して実施</div>																							

『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組			取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (具体的な取組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度													
							第1四半期	第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期	第2四半期			第3四半期			第4四半期								
							4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
安全意識 醸成	膝詰め対話	会社幹部	実施状況(駅部門)	6月以降の膝詰め対話においては、会社幹部からコンプライアンス及び安全意識について、現場社員に対して直接メッセージを伝える機会とすること、安全の取組みに対して社員がどのような思いを持っているか確認することという共通のテーマを設定し、安全意識の醸成につなげる取組みとしております。	【10月】東室蘭駅(2回目)(10/10)、小樽駅(2回目)(10/16)、余市駅(10/16)、深川駅(10/17)、五稜郭駅(10/27)、白石駅(2回目)(10/30)、七飯駅(10/31) 【11月】名寄駅(11/10)、遠軽駅(11/12)、美瑛駅(11/20)、砂川駅(11/20)、八雲駅(11/20)、厚別駅(11/26) 2025.11月末現在 52箇所/59箇所 ※南千歳駅は千歳駅、稚内駅は南稚内駅に含む	<div>2025年6月実施分から意見交換テーマを特定のテーマに指定して実施</div> <div>2025年10月及び2026年4月に、ひざ詰め対話を実施した会社幹部が集まり、社長への「ひざ詰め対話報告会」を実施</div>																										
			実施状況(運輸・車両部門)		【10月】札幌運転所(10/6)、室蘭運転所(2回目)(10/10) 【11月】釧路運輸車両所(2回目)(11/5) 2025.11月末現在 16箇所/17箇所																											
			実施状況(工務部門)		【10月】室蘭保線所(2回目)(10/30) 【11月】函館設備所(11/5)、函館新幹線工務所(11/7)、名保音威子府保線管理室(11/5)、名保名寄保線管理室(11/10)、旭保遠軽保線管理室(11/12)、函保八雲保線管理室(11/20) 2025.11月末現在 41箇所/56箇所																											
			実施状況(電気部門)		【10月】旭川電気所(10/2)、吉電室蘭派出所(10/10) 【11月】函館電気所(11/6)、旭電名寄派出所(11/10)、函館新幹線電気所(11/19)、岩見沢電気所(11/20)、岩電滝川派出所(11/20)、岩電遠分派出所(11/20)、吉電千歳派出所(11/20)、吉電室蘭派出所(2回目)(11/20) 2025.11月末現在 15箇所/17箇所																											
			安全推進部		・「ひざ詰め対話報告会」を実施(11/6)																											
	作業責任者と列車見張員による相互確認	工務部	作業等の実施区間、可搬式特殊信号発光機の設置区間、その撤去消灯時期の相互確認	作業責任者は、作業等を実施する駅区間に加え、可搬式特殊発光信号機を設置する駅区間、及び撤去消灯時期が適切であるかについて、列車見張員と相互に確認することとします。	11/26に本社工務部社員がウェアラブルカメラの映像が、正しく記録されているかどうかの確認をしていたところ、カメラを装着した列車見張員が本来見張り業務に専念すべきところ作業に従事していることを発見。																											
	作業計画表の保線所送付・確認		作業計画表の保線所送付・確認	今後は、プロセス管理とは別に、保線管理室は作成した「作業計画表」を保線所へ送付し、保線所は計画されている作業に対して「作業計画表」が作成されていることを確認することとしました。																												
ルール	安全に関するルールの見直し	安全推進部 駅業務部 工務部 電気部																														

『「鉄道の安全輸送の確保について(指示)」に対して講ずる措置」の2025年11月末日実施状況報告

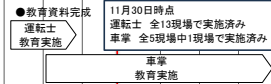
11/30現在

区分	改善報告書の取組			取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (進捗状況を取り組内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度													
							第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期				
							4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
その他発生 事象対策	過去の終端線冒進 対策の ATS(新千歳空港 駅)	運輸部	残置したATS地上子の要否の 検討	2025年5月30日に千歳線新千歳空港駅構内において ATS鳴動時の取扱いに適切を欠き非常ブレーキを動作 させお客様にお怪我を負わせた事象については、緊急 的に保安装置の適切な取扱いに関する注意喚起を行 いました。また、非常ブレーキが動作する要因となった地上 設備の在り方について、過去の安全対策として設置した 確認用地上子を、運転操縦上の目安としても活用されて きた経緯から速度照査型ATS(以下、「ATS-DN形とい う。)」の整備後も残置してきましたが、ATS-DN形のみで 安全が確保できており、確認用地上子の残置が運転阻 害などの「過剰な停止手配になる」リスクとなっている現 状を踏まえ、運転操縦上の影響の有無を確認のうえ、そ の存廃の検討を進めることとしました。	・新千歳空港駅乗り入れ運転土区所で、ホーム内確認用地上子の撤去予 定について周知(10月指導訓練) ・安全推進委員会に報告(11/28)																											
	指令との確認会話教 育		列車間合い変更に特化した教育	冬期構内作業資料集には指令との確認会話を示した ページはあるものの、指令との定例の打合せをメインに 講習をしていました。当該見張員は、2024年10月に定め た、列車間合いを変更する際のルールに基づいた確認 会話が出来なかったことを受け、これに特化した教育を 実施します。	・指定された列車間合いが使用できなかった場合の確認会話事例集に基 づいた教育を行うよう、管理者冬期安全講習会で周知実施済み。(10/10) ・列車見張員講習会(全24会場、32回開催)において、列車見張員従事予 定者全員に対し、同資料を用いて教育実施。 ・各駅の冬期安全講習会(在来線全駅で実施)にて、冬期除雪作業に従 事する駅社員およびパートナー社員全員に対し、同資料を用いて教育実 施。																											
	保守用車の取扱い 教育等																															
	駅業務部	駅間承認に関わる教育資料作成 駅間承認に関わる訓練の実施	駅間承認に関わる教育資料作成 駅間承認に関わる訓練の実施	過去に発生した駅間承認に関わる事象をまとめた教育 資料の作成や、新人フォロー教育における駅間承認に 関わる項目の追加、保守用車取扱い訓練時に駅間承認 の取扱いを追加して訓練を実施します。	・駅間承認に関わる事象をまとめた資料(事例検討集)に基づく教育につ いては、第2回輸送の安全確保巡回にて、駅間承認を実施する運転取扱 駅・運行管理駅16駅の実施状況を確認中(第4四半期報告で報告予定)。 ・運転取扱駅における線路閉鎖に関わる新人フォロー教育の実施につい て、第2回輸送の安全確保巡回にて、運転取扱駅全駅に再周知。(実施 状況は今後の輸送の安全確保巡回にて確認)																											
				今年度実施済み	今年度実施済み																											
その他取組	安全推進部配属 社員の教育	安全推進部	安全推進部の役割や業務内容につ いての教育	「事業改善命令・監督命令による措置を講ずるための計 画」における安全推進部の強化の取組みの一つとして、 安全推進部に配属になった社員に対し安全推進部の役 割や業務内容等について教育を行ってきました。安全推 進部は、各技術部門の安全確保に関する取組みの総合 調整等、会社全体の安全対策の管理業務を優先的、かつ、円滑に行うための役割を担う組織であり、その役割 を果たすためには、安全の仕組みの本質を身に着ける 必要があります。速やかにそのスキルを身に着けるため に、配属社員に対する教育を再開することとしました。	・「鉄道に関わる関係法令について」勉強会を実施(10/20) ・「運転関係指導者講習会」勉強会を実施(11/27)																											
	保線社員の 誇り・責任感の 醸成	工務部	保線業務の積極的な公開	過去に函館駅で実施した保線業務のパネル展示等を行 った取組みによって、保線業務が安全を担う重要な業 務であることとご利用のお客様に理解していただくことが 出来ました。それにより社員が仕事の誇り・責任感をより 認識することに繋がりました。その結果、ルール遵守の意識を 高めることにも繋がったものと考えられることから、今後 も保線業務の積極的な公開を行うこととしました。	・実績なし																											
	発生事象の 公表	広報部	事象毎個別に判断	砂川駅構内で発生した事象以降、不安全な事象を立て 続けに発生させ、ご利用の皆様をはじめ多くの方に当社 の安全に対して不信を抱かせることとなってまいまし た。この事態を受け、これまで公表していなかった事象に についても、個別に判断して公表することとしました。	・10月以降も個別に判断して公表することとしている。	完了																										
	自主監査 フォローの施策 への反映状況の確認	監査部	安全推進部や本社計画部門が適切 に自主監査に係る取り組みを行って いることを確認	各部署が集めた意見や情報をどのように施策に反映させ るかというPDCAの取組みの確認	・10月～電気部(10/24岩見沢電気所、10/28函館電気所、10/30札幌電 力所)、工務部(11/4室蘭保線所、11/11旭川設備所、11/17釧路設備所) による現場長自主監査実施状況確認に同行(6箇所)、12月以降は安全 推進部3箇所同行予定(スケジュール確認中)																											
	全ての社員が当事 者意識を持って行動 するための取組み	安全推進部 駅業務部 運輸部 車両部 工務部 電気部		類似したトラブルが発生していることを踏まえると、すべ ての社員に安全への取組みが浸透していないことが想 定される。全ての社員が当事者意識を持って行動するこ とが出来るよう対策を検討。	・厳正な運転業務の徹底について安全統括管理者名で運転関係に従事 する全社員に対し「社員の皆さんへ」を発売(10/10) ・各現場において「鉄道のプロとして超えてはいけな一線」の具体例を 含めた指導を実施(10/24完了)																											

『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組		取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (具体的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度																		
						第1四半期 4 5 6	第2四半期 7 8 9	第3四半期 10 11	第4四半期 12	1 2 3	第1四半期 4 5 6	第2四半期 7 8 9	第3四半期 10 11 12	第4四半期 1 2 3																						
18事象 個別対策	【18事象個別対策】 5. 2024.12.18 函館線 線路/構内 作業開始前打ち合わせを行わずに作業を開始した事象	駅業務部	1.現場長及び管理者により当務やパートナー社員への実作業点検の見直し	・点検頻度、点検項目の見直しを図るなど、適切に点検指導できるよう取り組むこととします。 (12月から実施)	●実施状況報告で進捗確認 『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の実施状況報告 [安全監査]―[実作業点検]―[点検項目および点検頻度の見直し]で取組実施 ※報告書取組番号:⑦⑧																															
			2.計画部門による現場巡回の見直し	・これまでの計画部門による現場巡回は、現場長による自主監査に基づいた、帳票上での確認に比重を置いてチェックしてきましたが、現場の実作業立ち会い、教育関係の指導・補助にシフトした巡回にします。 (7月から実施)																																
		駅業務部	1.現場長及び管理者により当務やパートナー社員への実作業点検の見直し	【駅業務部】 ・点検頻度、点検項目の見直しを図るなど、適切に点検指導できるよう取り組むこととします。 (12月から実施)																																
			2.計画部門による現場巡回の見直し	【駅業務部】 ・これまでの計画部門による現場巡回は、現場長による自主監査に基づいた、帳票上での確認に比重を置いてチェックしてきましたが、現場の実作業立ち会い、教育関係の指導・補助にシフトした巡回にします。 (7月から実施)																																
	【18事象個別対策】 7. 2024.10. 7 根室線 札内～厚内間 線閉着手前、終了後に線路内作業を行った事象	工務部	1.徒歩巡視行程の見直し	・当該保線管理室の徒歩巡視について、時間的な余裕を確保する目的で、週2日行程だった徒歩巡視パターンを、3日行程に見直しました。 ・全保線所において、徒歩巡視パターンを点検し、無理のない行程であることを確認しました。		完了																														
	【18事象個別対策】 8. 2023. 9. 8 函館線 白石～苗穂間 徒歩巡視を怠り、これを実施していとと虚偽報告した事象	工務部	1.巡視の重要性について理解を深めるための教育の実施	現場長による社員教育や面談において、徒歩巡視の重要性を改めて認識した上で、厳正に実施するよう以下の点等について指導しました。 ・徒歩巡視は、常に列車が安全に走行できる状態を保持できているかを把握することを目的としており、マニュアルに則って崇高な使命を深く自覚し実施しなくてはならないこと。 ・「重点確認項目」に基づき、月別または四半期別に具体的な確認事項を設定すること。また、天候状況等に応じて必要な確認事項は、随時追加指示すること。 ・そのうえで、当日の徒歩巡視の責任者は、従事者に対しA点呼において重点確認項目及び確認事項を具体的に周知すること。		完了																														
	【18事象個別対策】 9. 2025. 4.10 室蘭線 大岸～豊浦間 特急列車運転士と保線作業員との証言の相違した事象	運輸部(車両部) 工務部(電気部)	※改善指示に対して講ずる措置にて進捗状況を確認																																	
	【18事象個別対策】 10. 2025. 4.20 函館線 森構内 出発合図を受けずに列車を発車させたことを報告しなかった事象	運輸部	1.合図に関する教育の強化	・合図が鉄道信号の一つであり、これが無いときには移動の許可が無いこと、合図を受けない移動は関係者相互間の意思疎通が図られない移動を意味し危険であることを再教育する取り組みを行います。本社で教育資料を作成し、指導訓練内で年1回項目を指定して現場で実施します。		・運転士は、10月指導訓練までで全13現場で教育実施 (9月 7現場、10月 6現場) ・車掌は、全5現場中、10～11月1現場で教育実施	●教育資料完成 → 運転士 教育実施	11月30日時点 運転士 全13現場で実施済み 車掌 全5現場中1現場で実施済み → 車掌 教育実施																												
						※2025年度の実施結果を踏まえ、 以後の教育内容を検討 ※以降は継続して実施																														



※2025年度の実施結果を踏まえ、
以後の教育内容を検討
※以降は継続して実施

『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組	取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (具体的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	2025年度												2026年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
				第1四半期				第2四半期				第3四半期				第4四半期				第1四半期				第2四半期				第3四半期				第4四半期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
18事象 個別対策	【18事象個別対策】 11. 2025. 4.22 函館 線野田生～山越間 列車が可搬式特殊 信号発光機と接触し た事象	工務部	※改善指示に対して講ずる措置にて進捗状況を確認																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組	取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (具体的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	2025年度														2026年度													
				第1四半期				第2四半期				第3四半期				第4四半期				第1四半期				第2四半期				第3四半期			
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
18事象 個別対策	【18事象個別対策】 16. 2025.6.25 函館線七飯～新函館北斗間で列車が工具のケースと接触した事象	1.「安全最優先」の繰り返し教育	【電気部】 ・今後は、10条教育や請負事故防止会議に「安全意識と行動」に関する項目を追記し、繰り返し教育をしていきます。 ・特に「少しでも疑問に思ったら、躊躇することなく確認しよう!」という意識づけを教育していきます。 (8月から実施)	●実施状況報告で進捗確認 『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の実施状況報告 [安全意識醸成]ー[コンプライアンス教育]ー[10 条教育・電気関係社員安全講習会][請負会社への安全意識の向上に寄与する教育]で取組実施 ※報告書取組番号: Q3C 請負会社内での教育実施状況の確認 請負会社が開催する安全会議(月1回)に、JR監督員等が出席し、作業従事員への安全指導等の教育実施状況を確認した(8/22、9/24)。																											
		2.運転状況を確認した「遅れ列車等」に対する見張りダイヤの記載方のルール化	【電気部】 ・今後は、見張りダイヤに「遅れ列車等」の記載方をルール化します。 ・ルール化については、電気部で昨年度初に発出した指導文書(2024年度電制指導7号・電技指導2号)「一連の退避誤り等に伴う触車事故防止の取り組みについて」に、項目を追加し再発出します。 (8月末発出予定)	完了																											
			【電気部】 ・また、今回新たに発出した「電気関係安全パトロールの実施方法について(通達)」の点検内容に「見張りダイヤに遅れ列車等のスジを記載したか」を盛り込みます。 (7月から実施)	完了																											
		3.「可搬式特発の取扱い方」に関する教材の作成	【電気部】 ・このため、異常時(予期せぬ列車の接近)における可搬式特発の取扱い方について、教材を作成し教育することとします。 ・教材には、「正しい取り扱い」「不適切な取り扱い」について盛り込み、不適切な取り扱いを行った場合は、最悪仲間の命が失われるということを教育していきます。 (今年度作成 順次活用)	●映像制作会社へ協力依頼 ●企画書(案)受領																											
		4.「触車事故防止マニュアル」の繰り返し教育	【電気部】 ・毎年実施する10条教育に、「触車事故防止マニュアル」の教育についてカリキュラムを見直し、1年に1回は教育する場を設けます。 (8月から実施)	●実施状況報告で進捗確認 『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の実施状況報告 [安全意識醸成]ー[コンプライアンス教育]ー[10 条教育・電気関係社員安全講習会][請負会社への安全意識の向上に寄与する教育]で取組実施 ※報告書取組番号: Q3C																											
		5.「保安体制図」の記載方の追記	【電気部】 ・今後は、保安体制図には、「運動駅」を図で示すこととし、指導していきます。 ・指導については、電気部で昨年度初に発出した指導文書(2024年度電制指導7号・電技指導2号)「一連の退避誤り等に伴う触車事故防止の取り組みについて」に、項目を追加し再発出します。 (8月末発出予定)	完了																											
	【18事象個別対策】 16. 2025.6.25 函館線七飯～新函館北斗間で列車が工具のケースと接触した事象	6.「電気関係安全パトロールの実施方法について(通達)」の発出(7月2日制定済)	【電気部】 ・このため、「電気関係安全パトロールの実施方法について(通達)」を作成し、パトロールを実施する指針を定めます。 ・安全パトロールの点検内容には、今回の事象で見えた、「見張りダイヤの記載方(今後ルール化)、工事指揮者と見張り員全員による「相互確認」、「可搬式特発の取扱い手順」「建築限界内に工具等を置いた場合の取扱い」を項目に加え、確実に実行されているかをチェックします。 (7月から実施)	完了																											
		7.安全パトロールによる工事指揮者への理解度確認	【電気部】 ・一般工事を請負う協力会社に対し、工事指揮者単位で初回の見張り体制作業の際に、JR管理者による安全パトロールを実施し、理解度を確認します。 ・不合格の者については、再教育を施し再度安全パトロールで確認します。 (7月から実施)	●実施状況報告で進捗確認 『『鉄道の安全輸送の確保について(指示)』に対して講ずる措置』の実施状況報告 [安全監査]ー[請負会社に対する作業実施の把握]ー[請負会社に適した対策の実施状況の把握]で取組実施 ※報告書取組番号: A																											

『「鉄道の安全輸送の確保について(指示)」に対して講ずる措置」の2025年11月末日実施状況報告

11/30現在

区分	改善報告書の取組	取り組み概要 (講ずる措置抜粋)	2025年10月1日～11月30日までの進捗状況 (具体的な取り組み内容・実施実績等、予定含む)	ステータス	2025年度												2026年度												
					第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
18事象 個別対策	【18事象個別対策】 17. 2025.6.27 函館 線札幌横内駅で誤って 乗車されたお客様を 降車させる際に入 換車両が動き出した 事象	運輸部	1.車掌に対し、以下の内容を継続的に指導します。	【運輸部】 ・乗務員用乗降ドア閉扉後は、車両に触れないこと。 ・誤って乗車された旅客を見つけた場合など再度車両に近付いたり乗り込んだりする際は、移動開始時刻を確認すること。 →車両の移動開始まで時間がある場合は、運転士や駅社員などと打ち合わせ、車両が動かない手配を行ってから行動すること。 →車両の移動開始直前の場合は、車両に近付かないこと。 ・誤って乗車された旅客を無理に降ろさないこと。 ・旅客から「降ろしてほしい」と強く訴えられても、安全を最優先に考え毅然と対応すること。 (7月の定例訓練から年1回実施)	今年度実施済み																								
				【運輸部】 ・上記の指導項目について、「最悪の事態」の理解を深めるため、事象を再現した動画教材を製作し指導に活用します。 (2025年度下期)																									
				【運輸部】 ・上記の指導項目について、各区所のシミュレータを用いて体感できる指導を行います。 (2026年度上期)	2026年度上期実施予定																								
			2.回送列車・入換車両へ旅客が誤って乗車した際に、外国人でも誤りに気づき降りられるよう車内表示器及び自動放送装置の改修を検討します。	【運輸部】 ・終着駅到着後に「この列車は回送列車です。ご乗車できません。(日本語・英語)」という表示及び自動放送を追加します。(すべての特急車を対象) (2025年度中の実施に向けてメーカと調整中)	・2026年春ダイヤ改正後速やかに着手し、2026年夏頃までに完了予定																								
	【18事象個別対策】 18. 2025.6.28 函館 線野田生駅構内で 列車がペール缶と接 触した事象	1.「10条教育」における教育の見直し	【工務部】 ・工事管理者が毎年受講する「10条教育」において、跡確認時に留意すべき事項(従事する社員の安全等)について、講習内容の見直し及び知悉度確認に追加することにより、繰り返し教育を行います。(8月から実施予定)	●実施状況報告で進捗確認 『「鉄道の安全輸送の確保について(指示)」に対して講ずる措置」の実施状況報告 [安全意識の醸成]ー[コンプライアンス教育]ー[請負会社への安全意識の向上に寄与する教育]で取組実施 ※報告書取組番号: C																									
			2.請負会社内での教育実施状況の把握	【工務部】 ・安全検討会時に、当該工事に係わる工事管理者が全て出席していない場合は、請負会社内で該当する工事管理者へ工事概要や指導内容について周知を行うこととし、その記録を提出するしくみを構築します。	・10月以降発注工事についても請負会社内で従事員に対し実施する教育・指導記録について、出席者名簿とその状況を工事写真に収めたものをしゅん功書類として提出するよう、追加指示書に記載し確認している。	完了 継続 実施																							
		【工務部】 ・監督員等は、請負者が作業従事員として協力会社を活用する場合には、それらの者に対する教育及び指導内容の報告の必要性について、請負者に対して工事安全検討会において繰り返し指導を行うとともに、工事着手前に指導内容を確実に確認した上で工事を開始させることを徹底します。(8月から実施予定)		・10月以降発注工事についても請負会社内で従事員に対し実施する教育・指導記録について、出席者名簿とその状況を工事写真に収めたものをしゅん功書類として提出するよう、追加指示書に記載し確認している。	完了 継続 実施																								
		3.安全に係わる文書・注意喚起の周知徹底	【工務部】 ・安全に係わる指導文書の発出や事象等が発生した際には、工事管理者に対して周知し、周知されたことが確認できるしるしを構築します。(工事履行中の工事管理者に対しては特に迅速に行います) (7月から実施)		完了																								
			4.工事管理者を現地でフォローする体制の構築	【工務部】 ・今後、当該請負会社が発注する工事については、工事管理者有資格者を複数人配置し、点呼にて、工事管理者が他の工事管理者有資格者に列車ダイヤ・無線機等を手渡し、工事管理者との連絡手段を確保した上で、必要により、工事管理者のフォローが行える体制とします。 (8月から実施予定)	・8/29に実施した安全検討会により、安全対策について議論実施。	完了																							
		5.工事管理者の資質に関する再確認の実施	【工務部】 ・工務部は指導文書を発出し、現業機関管理者の安全ハローールにより、現在工事従事する全ての工事管理者に対し「列車を通過させるために必要な3つの確認の重要性(特に建築限界内の支障物の跡確認)」及び「待避指示や待避完了合図等の連絡が取れないような状態で、作業員に作業集団から離れた位置で作業を行わせてはいけないこと」に対する指導及び理解度確認を工事管理者ごとに十分な資質が確認できるまで実施します。 (6月30日から実施)	●実施状況報告で進捗確認 『「鉄道の安全輸送の確保について(指示)」に対して講ずる措置」の実施状況報告 [安全監査]ー[請負会社に対する作業実施の把握]ー[請負会社に適した対策の実施状況の把握]で取組実施 ※報告書取組番号: A																									

ウェアラブルカメラ導入により、ルール違反を発見した事例

【日 時】 2025年11月18日(火) 10時頃 天候：雪

【場 所】 室蘭線 栗丘駅～栗沢駅 栗丘構内町通り踏切 ・ 南15線通り踏切 ・ 南14線東7号通り踏切

【概 況】

- 本社社員が、ウェアラブルカメラの映像が、正しく記録されているかどうかの確認をしていたところ、カメラを装着した列車見張員2名が、除雪作業に従事していることを発見しました。
- その後、関係社員への聞き取りの結果、関係者5名で別の作業を実施していたところ、現地の積雪量が多く、踏切通行者の安全確保のため、急遽、作業内容を変更し、踏切除雪を実施した際、列車見張員が見張業務に専念せず、踏切の除雪作業に従事するというルール違反があったことが判明しました。

※列車見張員は、「列車の進来監視、作業等の責任者・従事員に対し、列車接近合図及び必要な列車防護を行う」ため配置される者であり、列車見張員は、いかなる場合でも、見張業務に専念しなければなりません。

- 列車見張員が見張業務に専念せず作業等に従事した場合、列車の進来を失念するなどして、従事員の待避が遅れ、列車の緊急停止や最悪の場合、列車との接触事故が発生する恐れがあります。

※事象発生時は、警報機と遮断機のある踏切内での除雪作業を行っていました。踏切警報機の鳴動により列車の進来を把握できる状況であり、また、当該箇所を通過する次の列車までは3時間程度の時間がある状況でした。
お客様がご利用される列車に対しても、安全を支障する状況ではありませんでした。

ウェアラブルカメラ導入により、ルール違反を発見した事例

【 問 題 点 】

○列車見張員が、本来実施すべき見張業務に専念せず、作業に従事したこと。

【 再 発 防 止 策 】

- 工務関係全職場と情報共有するとともに、全職場で職場内議論を行うことで、改めて、ルールを職場全体で守っていくことの重要性について指導しました。
- 全保線職場に対し、会社幹部から社員に対して直接訓示を行い、社員に「ルールを守る意味」を再認識させます。
- ウェアラブルカメラの映像を活用することで、ルール違反を早期に発見し、触車事故などの重大事故の発生を未然に防ぐための指導・対策に結び付けていきます。
- 同種事象防止に資するルールの見直し等を、迅速に行っていきます。
ルールの見直しの例：より安全な保安体制である「線路閉鎖工事」を選択しやすくする手続きの見直し など

今後も、改善指示に対する措置を確実に進め、ウェアラブルカメラなどのハード対策を有効に活用することで、ルール違反を見逃さない・発生させない環境を構築し、鉄道の安全性向上に努めてまいります。